

教育実習生への効果的な指導・支援について
～充実した教育実習にするために（実習指導講師 初年度を振り返って）～

教職支援センター 佐野 雅世

1. はじめに

本年度4月より実習指導講師として着任し、まもなく1年が経とうとしている。これまでの教職経験を生かしながら、教職を目指す学生に学校現場の現状・様子や教職の魅力を伝え、これから教育実習に臨む学生の不安を取り除き、モチベーションを高めたいと考えた。充実した教育実習での学びをもとに佛教大学を目指す教師像である「深い子ども理解」「高い指導力」「豊かな関係性」を備えた教員を育成するために、何を大切に何を伝えていくのか手探りでの日々であった。先輩教員に助言をいただきながら何とか実践してきた。

今回、教育実習事前指導から実習期間中の実習校訪問指導、事後指導等に至るまでを振り返り、その成果と課題について考察する。

2. 教育実習研究/指導（事前学習）の実際

通学課程

今年度、通学課程の中等教育実習研究 Sh クラスと教育実習指導(中・高)Sh クラスを担当することとなった。私自身の専門は初等教育であるが、中学・高校の社会科を担当すると聞き、当初抵抗があった。中等教育や社会科教育が専門の教員でなくて良いのか、学生に失礼ではないのか等葛藤があった。そのため私自身がしっかりと理解の上で指導すべきと考え、まだまだ不十分でこれからも継続することが必要ではあるが、中学校・高等学校の社会科について新学習指導要領や社会科の指導書等で研究する時間を設けた。研究を進めるうちに、学生が教育実習での学びを深めるために必要なことは、学習指導方法を学ぶことはもちろん大切ではあるが、学校現場の厳しさや実習校の教員の思いを理解し、教育実習に出る前の心構えをしっかりと意識できるようにすることが教育実習での学びに直結すると考えるようになった。

(1) クラスの状況

教育学部臨床心理学科4人、社会学部公共政策学科3人、社会福祉学部社会福祉学科19人の計26人のクラスである。コロナ禍の体調不良ということもあったが、欠席や課題提出の遅れが多いという印象であった。

授業の最初にとったアンケートや「実習生個票」からクラスの状況について述べる。

① 教員採用試験について

受験予定（今年度・来年度以降）	18人
受験しない	6人
未定	2人

※クラスの1/4の学生が教職を目指さず教員免許の取得だけを考えている。

② 教育実習に向けて不安なこと

- ・ 模擬授業, 授業の経験がない
- ・ 生徒がわかりやすい授業ができるか
- ・ 板書, 読みやすい文字に自信がない
- ・ 指導案, 板書計画の作成方法がわからない
- ・ 生徒の反応に対し柔軟な回答ができるか
- ・ 自信を持って授業等の展開ができるか
- ・ 話し下手で緊張から上手く話せない
- ・ 適切な敬語・言葉遣いや礼儀作法ができるか
- ・ 教職員や生徒とのコミュニケーション, 関係づくりができるか
- ・ 自分自身の知識・能力の不足, 専門性に自信がない
- ・ 実習校の雰囲気馴染めるか
- ・ 教師としての責任への認識不足ではないか
- ・ 自分自身の教職への適正があるか

など

③ 教育実習で学びたいこと

- ・ 学校教育現場の課題と対応, 取組
- ・ 生徒との接し方や関わり方
- ・ 多様化する子どもたちへの取組
- ・ 教職員との連携の仕方
- ・ 授業の構成や方法, 技術など, 「わかる授業」の展開
- ・ 「チーム学校」の一員としての教師の姿勢
- ・ 子どもや保護者との信頼関係の結び方
- ・ 他の専門機関との連携
- ・ 教師の仕事内容全般
- ・ 自分自身の不足する点や課題, 社会人としての心構え

など

以上から, 教育実習に臨むに当たって教職に対する迷いや不安を持つ学生が一定数いる一方, 教育実習で何を学びたいのかを明確に持つ学生もおり不安と期待が混在している。

(2) 授業の概要

- 第1回 4月 8日(金) グループ編成・教育実習の目的と目標
- 第2回 4月12日(火) 教育実習生としての基本姿勢と心構え・実習簿について
- 第3回 4月15日(金) 教育実習の実際
- 第4回 4月19日(火) 授業づくり～「主体的・対話的で深い学び」の実際
- 第5回 4月22日(金) 授業づくり～学習指導案の作成～
- 第6回 4月26日(火) 模擬授業

(3) 授業の実際

学生が教育実習に臨むに当たって感じている不安を少しでも解消し目標を明確に持つためには、事前指導を通して学校現場の様子や教育実習での生活、学習授業案づくり・授業の実際などを具体的にイメージできるようになることである。そのために、本授業においても、実際の学校現場で今求められている「主体的・対話的で深い学び」となるようなアクティブな授業にすることが大切である。つまり、一方的に伝達するトップダウン型の授業ではなく、学生が自ら考え対話・交流するボトムアップ型の授業となることである。

私自身が不慣れなこともあり、実際にはなかなか理想とする授業とはならなかったところも多々あったが、授業を重ねるたびに課題の改善に努めた。

《今年度実施の内容》

① ワークシートの活用

テキストやプレゼンソフトに沿って授業を進め、準備したワークシートに自分の考えを記入させた。毎回課せられる課題に対する自分自身の考えを明らかにし確認させた。

(課題例)・教職を目指す理由は何か。

・教育実習に当たって、不安に思うことは何か。

② 個人作業⇒グループワーク・グループ交流⇒全体発表

不安や疑問はもちろんであるが、課題に対する各自の考えをまとめる作業をした後、グループで交流し、各グループのまとめを全体で発表・交流するようにした。他者の考えを知るとともに自身の考えを練り確認することにつながる。

(課題例)・教育実習を有意義なものとするために、どのような意識で臨めば良いか。

・実習初日のあいさつを考える。

③ 指導案や板書計画作成などの作業時間の確保と、学生同士の対話時間の確保

単元の設定、目標の設定、授業形態、使用教材、授業の流れなど授業づくりをイメージする段階から、グループで意見交換の場を設け、授業時間での作成を促すと、教材選びから相談し合う姿が見られた。教材作成や時間内に完了しなかった場合は次回までの課題とした。

(課題例)・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、どのような工夫をするか。

・どのような学習形態が有効か。

④ 模擬授業の実施と自己評価・相互評価

グループ内での模擬授業では黒板の代わりにミニホワイトボードを使用し、互いの良かった点や課題などを交流し、改善するようにした。更にグループで選んだ授業を全体でも行って相互評価するとともに、授業者には他学生からコメントカード(ほめほめカード)を渡してモチベーション向上に努めた。

第5講時 模擬授業 (グループ) での相互評価と授業の様子

第5講時 指導案を作成して、模擬授業をしよう

学部 学番番号: [] 名前 []

(課題) グループワーク: 模擬授業を評価しよう。

NO	授業者氏名	工夫していた点	改善点
1	[]	丁寧な口調でわかりやすい説明ができた。 ・問いかけが適切な内容を盛りこんでいた。	・指導案の準備不足 ・模擬パートをスライドで考慮できていない。
2	[]	・視点が全体を見回していた。 ・問いかけが適切な内容ができていた。	・指導案の準備不足 ・ノートがなかった(書き出し)が書けていた。
3	[]	・振り回りをしつづけていた。 ・視点が全体を見回していた。	・少し準備不足 ・説明を問いかけを繰り返していた。

模擬授業をして、工夫できた点や改善点など、振り返り

自己評価

- ・7-11のノートで、まとめることができた。
- ・前回の振り返りを身に着けて、7-11で指導案を作ることができた。
- ・時間配りが上手にできていた。
- ・余裕ができて、落ち着いて授業ができた。

評価: A(大変良い) B(良い) C(努力が必要) 改善点が3点以上
評価の視点: 第4回の資料「発問、板書等の留意点」を参照。言葉遣い、表情、問の取り方などもチェック。

第5講時 指導案を作成して、模擬授業をしよう

学部 学番番号: [] 名前 []

(課題) グループワーク: 模擬授業を評価しよう。

NO	授業者氏名	工夫していた点	改善点
1	[]	・丁寧な口調でわかりやすい説明ができた。 ・問いかけが適切な内容を盛りこんでいた。	・指導案の準備不足 ・模擬パートをスライドで考慮できていない。
2	[]	・視点が全体を見回していた。 ・問いかけが適切な内容ができていた。	・指導案の準備不足 ・ノートがなかった(書き出し)が書けていた。
3	[]	・振り回りをしつづけていた。 ・視点が全体を見回していた。	・少し準備不足 ・説明を問いかけを繰り返していた。

模擬授業をして、工夫できた点や改善点など、振り返り

自己評価

- ・質問が思いつく場面は、あらかじめ、自分の質問が難しいかな、予想外の回答が出て、どう対応して軌道修正するのかなどを自分で考えて、準備しておくことができた。
- ・7-11のノートで、まとめることができた。
- ・余裕ができて、落ち着いて授業ができた。

評価: A(大変良い) B(良い) C(努力が必要) 改善点が3点以上
評価の視点: 第4回の資料「発問、板書等の留意点」を参照。言葉遣い、表情、問の取り方などもチェック。



第6講時 模擬授業(全体)での相互評価と授業の様子

第6講時 模擬授業をしよう

学部 学番番号: [] 名前 []

(課題) 全体交流: 模擬授業を評価しよう。A(大変良い) B(良い) C(努力が必要)

NO	授業者氏名	工夫していた点	改善点
1	[]	細かなことまで説明できて、とても詳しく話していた。話し方にも丁寧さを感じました。	・切り替えが早くできていた。スムーズに話していた。
2	[]	・興味を惹く質問ができていた。 ・興味を持って話を聞いていた。	・板書の大きさや位置について、もう少し工夫して欲しい。
3	[]	・相手が話している内容を、しっかりと聞いて理解しようとしている。	・説明がもう少しわかりやすいように、もう少し詳しく話してほしい。
4	[]	・まとめる力があって、グループワークでまとめることができた。	・少し時間配りが、もう少し余裕を持ってほしい。
5	[]	・とても丁寧な話し方で、とてもわかりやすい説明ができていた。	・もう少し話し方が、もう少し丁寧な感じがほしい。
6	[]	・とても丁寧な話し方で、とてもわかりやすい説明ができていた。	・もう少し話し方が、もう少し丁寧な感じがほしい。
7	[]	・とても丁寧な話し方で、とてもわかりやすい説明ができていた。	・もう少し話し方が、もう少し丁寧な感じがほしい。

教育実習(事前)指導を終えて

人間で授業をするには、自分自身で授業を体験することが大切だと感じました。自分自身で授業を体験することで、授業の楽しさや、授業の難しさ、授業の大切さなど、自分自身で体験することが大切だと感じました。

評価: A(大変良い) B(良い) C(努力が必要)

第6講時 模擬授業をしよう

学部 学番番号: [] 名前 []

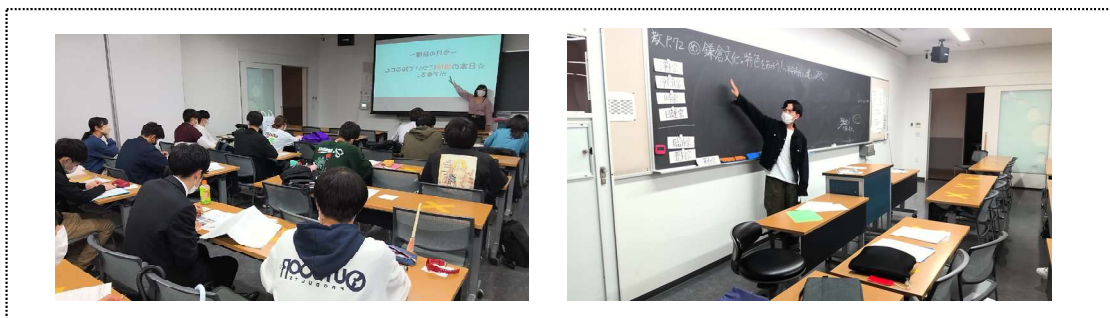
(課題) 全体交流: 模擬授業を評価しよう。A(大変良い) B(良い) C(努力が必要)

NO	授業者氏名	工夫していた点	改善点
1	[]	・丁寧な口調でわかりやすい説明ができた。 ・問いかけが適切な内容を盛りこんでいた。	・指導案の準備不足 ・模擬パートをスライドで考慮できていない。
2	[]	・視点が全体を見回していた。 ・問いかけが適切な内容ができていた。	・指導案の準備不足 ・ノートがなかった(書き出し)が書けていた。
3	[]	・振り回りをしつづけていた。 ・視点が全体を見回していた。	・少し準備不足 ・説明を問いかけを繰り返していた。
4	[]	・とても丁寧な話し方で、とてもわかりやすい説明ができていた。	・もう少し話し方が、もう少し丁寧な感じがほしい。
5	[]	・とても丁寧な話し方で、とてもわかりやすい説明ができていた。	・もう少し話し方が、もう少し丁寧な感じがほしい。
6	[]	・とても丁寧な話し方で、とてもわかりやすい説明ができていた。	・もう少し話し方が、もう少し丁寧な感じがほしい。
7	[]	・とても丁寧な話し方で、とてもわかりやすい説明ができていた。	・もう少し話し方が、もう少し丁寧な感じがほしい。

教育実習(事前)指導を終えて

自分の作成した模擬授業と、模擬授業を体験して、教員としての授業の楽しさや、授業の難しさ、授業の大切さなど、自分自身で体験することが大切だと感じました。

評価: A(大変良い) B(良い) C(努力が必要)



《事前授業後の通学生の感想》

- ・ 短い間に大変なこともあったが教育実習への心構えを確認でき良かった。指導案・板書計画など熟考が必要だと改めて感じた。
- ・ 模擬授業ができてよかった。事前準備が要になると強く思った。しっかりと準備することで良い授業になると思う。
- ・ 教科だけでなく実習校への礼儀や自分の意思を再確認でき、実習に向けてより身の引き締まる思いだ。全ての人にとって有意義な実習となるよう頑張る。
- ・ 実際に授業をしてみて、教材研究の重要性を感じた。また、他の人の授業を見て、チョークの使い方、筆順、グループワークの取り入れ方など、気をつけて実習に臨みたい。
- ・ 今までの講義では、指導案は作りっぱなしで具体的に改善点を指摘してもらえなかったのが、実習での授業イメージがつかめた感じがした。

(4) 振り返り

グループでの模擬授業に留まり、全員が全体で模擬授業を行う時間やフィードバック後に指導案等を再考・改善し模擬授業に再チャレンジする時間までは確保できなかった。

通信課程

(1) 今年度担当した事前授業

6月18日(土) 4～6講時	(春期)教育実習指導／研究小学校A	学習指導その他
7月31日(日) 4～6講時	(夏期)教育実習指導／研究小学校B	学習指導その他
11月12日(土) 4～6講時	(集中Ⅳ)教育実習指導／研究小学校A	学習指導その他
1月21日(土) 4～6講時	(集中Ⅴ)教育実習指導／研究小学校A	学習指導その他

(2) 授業の概要

- 第4講時 小学校の学習のポイント (全体講義)
- 第5講時 学習指導案作成 (講義・作業)
- 第6講時 模擬授業 (グループワーク・全体交流)

(3) 授業の実際

- ・ Zoom による全体講義では、事前配布したテキストやプレゼンソフト等の画面共有、授業例の動画視聴により授業づくりや指導案づくりのポイント、授業イメージをもてるようにした。

- ・ 授業案作成の個人作業時間を設け、模擬授業の準備をするようにした。その間、チャット等で質問を受けた。
- ・ ブレイクアウトルームでのグループワークでは、タイムキーパーや進行役を決めて模擬授業を行い、互いに良かった点や課題・改善点等を交流するようにした。私は各ルームに参加しながら、助言や感想を伝えるようにした。
- ・ 全体交流では、各グループでの学びや感想についての交流を行い、感想を伝え合った。

(4) 振り返り

対面ではなく Zoom での授業でのため、通信生の表情や反応を確かめながらの授業が難しい。その中でもブレイクアウトルームでのグループワークは、交流しながら自分の学びが確認でき有効な方法である。

3. 教育実習校訪問

(1) 担当した実習生

(地域別)

(人)

時期	春期			秋期					合計					計
	小	中	高	幼	小	中	高	特	幼	小	中	高	特	
奈良県	1	2	1	0	12	7	5	0	0	13	10	6	0	28
和歌山県	5	3	7	0	2	2	0	0	0	7	5	7	0	19
三重県	1	1	1	0	1	0	1	0	0	2	1	2	0	5
滋賀県	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
静岡県	0	0	0	0	3	1	0	1	0	3	1	0	1	5
長野県	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3
福井県	2	1	2	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	5
石川県	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
山口県	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
長崎県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
熊本県	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	3
合計	12	9	13	2	21	12	6	1	2	33	21	19	1	76

(実習生の所属と取得予定免許)

(人)

	幼	小	中学校				高等学校				特支	合計
			英語	国語	社会	数学	英語	国語	社会	数学		
通学生	0	0	0	1	4	0	0	3	4	0	0	12
併修生	2	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	13
通信生	0	23	8	2	3	2	7	2	2	1	1	51
合計	2	33	9	3	7	2	7	5	6	1	1	76

(実習校訪問の態様)

(人)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
訪問（授業参観あり）	2	27	20	15	0	64
訪問（挨拶のみ）	0	0	0	1	0	1
訪問不可（メール等対応）	0	2	1	3	1	7
対象外（メール等対応）	0	4	0	0	0	4
合計	2	33	21	19	1	76

以上の統計から、担当した実習生の約6割が私の担当地域の実習生であった。その内訳は通学生より通信生の担当数が多かったが、新型コロナウイルス感染症予防のために訪問不可となった学校が複数校あった。また、有り難いことに学校訪問した学校のほとんどから授業参観や事後指導の機会をいただいた。

(2) 参観授業の様子

(幼稚園)



年中児「絵の具でぺったん」



年長児「朝の歌を歌おう」

※ 園によって保育方針に大きな違いはあるが、共通の課題は全体を把握しながらいかに園児一人一人を見るか。

(小学校)



2年算数科「かけざん」



6年社会科「町人の文化と新しい学問」

※ 教材教具の工夫や一人1台のタブレット活用などが見られた。共通課題はいかに児童の反応をもとに授業展開するか。

(中学校)



1年社会科「活発な産業を支える人々の暮らし」



1年英語科「Something Else」

※ 画像資料やワークシート等の自作、ミニホワイトボード活用などの工夫が見られた。共通課題は受け身の生徒からいかに意見や考えを引き出すか。

(高等学校)



1年英語科「Retelling をしあげよう」



1年国語科「安くておいしい国の世界」

※グループワークやロイロノート活用によって生徒同士の考えを共有する試みがあった。共通課題は形だけでなく、いかに効果的な対話とするか。

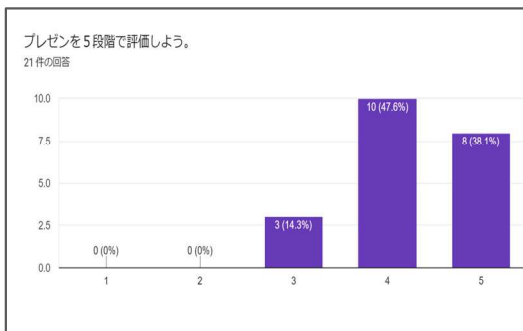
(3) 実習生への指導

(主な指導事項)

- ・導入で興味関心を持てるように工夫する。しかし、時間を取り過ぎず展開できるように「コンパクトにインパクト」を意識する。
- ・授業のゴールイメージからめあてを明確にする。めあては板書し最後まで示しておく。
- ・トップダウンの講義型ではなく主体的・対話的な授業形態を心がけ、児童生徒の考えを練り合える工夫をする。
- ・発達段階に合わせた声かけや支援を行う。
- ・普段のコミュニケーションを大切にして信頼関係を築くことが、授業にも生きてくる。
- ・授業で教師が話しすぎない。子どもの活動途中で指示や追加発問しないように、必要最適な発問を吟味する。
- ・正しい言葉遣いと丁寧な板書を心がける。

など

(Google Formsによる新聞発表の相互評価)



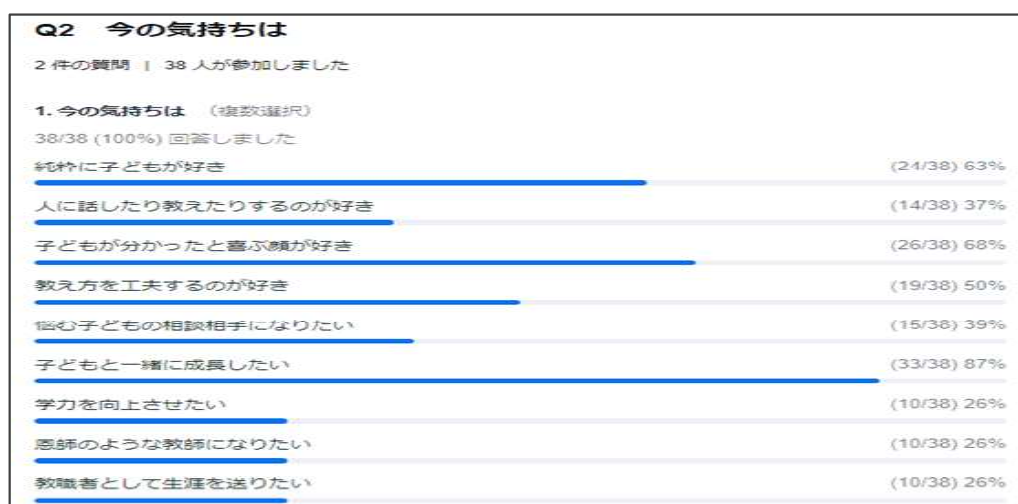
良かった理由

- ・学んだこと、これからについてしっかりまとめた上で考えることができています。
- ・イラストを使っていて説明が分かりやすかった。
- ・タイトルに思いがこもっていた。

など

(Zoom投票機能 実習後の気持ち統計)

Q1 教職への適性は「教師を目指す気持ちを確信し、課題も明確になった」・・・97%



(Zoom投票機能から学生の感想)

- ・今回の新聞発表を受けて、実習での自分の反省に生かせる内容がたくさんあったので今後の参考として行きたいと思います。又、自分と同じ悩みや経験をされた方がたくさんおり、解決法や対策を共有できたことをうれしく思います。
- ・みなさんが同じように悩み、楽しみ、多くの学びを得ることが出来たことが伝わり、刺激を受けました。
- ・自分が経験した場面と同じような場面に直面した方がいて、自分がしなかった対処法をしていたため、勉強になった。

など

5. おわりに

手探りながら、教職を目指す学生が教育実習に不安なく取り組み、充実し学びのある実習となるように効果的な授業を模索した。しかし、実習校から「指導案づくりや模擬授業経験の充実を」というご意見をいただいた。特に通信生の不安感は、対面で相談できない環境も影響があると考えます。授業を進めるに当たり、相互方向の授業づくりや質問・相談しやすい環境づくりなど、更に工夫をしていきたい。